

新山協ニュース

△ 発行者 平田大六 △ 発行所 新潟県山岳協会
〒951 新潟市下旭町109 鈴木敏雄方 TEL025-222-9548

中高年登山教室報告

金北山 ドンデン山

中高年登山委員長 坂井厚

当委員会主管の中高年登山教室を、金北山(ドンデン)北五十里で、9月9日～10日で行いましたので報告します。計画は幸いにも笹川スポーツ財団よりSSFスポーツ助成事業を、新潟県教育委員会、県体育協会、県長寿社会振興財団、県公民館連合会、新潟市教育委員会、市体育協会とそれぞれ後援を得た。

「登山マナー」中村中高年登山副委員長が「しおり」を素にマナーの向上をと述べた。「植物」加藤自然公園指導員がユーモアを交えて、動物からの植物名の由来を述べた。いずれも限られた時間でしだが有意義であった。数人の一般客が興味ありでじっと聴いていた。

9月9日、晴後曇。各班毎に大佐渡丸に乗船、開会式では、①委員長挨拶、県教育委員会他4機関と笹川スポーツ財団のSSF助成後援を得、111名と多数の参加を得た。事故なく運営した。

両津港到着、佐渡山岳会員に迎えられてバスに分乗、各班リーダー1名のみ每班乗車、一般参加数人と他役員が別乗車の変則的は、道路と車両定員で止むを得ない。宿舎前到着。前庭にて関佐渡会員より明日のコース説明。「佐渡の植物」と題して伊藤県自然環境保全専門調査員により、垂直分布の寸づまり現象特徴でお話があった。また、この後には藤井佐渡会員による「佐渡の山を記録する」の資料が配布された。この中には両津市近藤写真館主撮影の「金北山山頂における大町桂月」がコピーではあるがあった。

7月始の降雨で下山路の岩崎橋付近の地這りで通行不能となり、解除見込でコース変更決断が遅れた。地元佐渡山岳会を煩し、検討して北五十里口へ下山路変更は8月21日。この間、事務所の不在もあって郵便振替申込が、大幅に上回る110名を越えた為、急ぎ拡大手配となった。

4時起床、出発は各号車にリーダー1名のみ班員に同乗1時間余で防衛庁管理道路、衛門で許可証、鍵を受け上方へ、制限された地域だけあって窓外に見る植物景観は良い。金北山頂の終点着、下車後各班簡単な体操、山頂神社へ。ここで気配りの欠いた大きな運営ミスがあった。後続車が見えない。無線機も運用していないことでした。理由はどうあれ私の気配りの欠いた故であった。先着は出発したが35分の遅れは終わりまで響いた。遅くなった班は何も云わずについて来て欲しいと、リーダー先頭に急ぐ。

各自自己紹介、中に94年秋還暦登山で、ネパール、ヒマラヤ、コンデ・リ山群ロー峰6187m登頂の女性もいた。

ドンデン迄4時間、林道終点迄2時間強、佐渡の山に1000人を越える140名の社会人が上るのは初めて、隊列の開き、時間差は全くの未知数。

広報は新潟市報、新潟日報、BSNラジオ放送、スポーツ店のポスター掲示、口込み、過去参加者へのお誘い郵送にやった。

8月21日のリーダー打合会と結ぶ。

8月21日のリーダー打合会と結ぶ。

中川佐渡会員によって路傍

8月21日のリーダー打合会と結ぶ。

中川佐渡会員によって路傍

8月21日のリーダー打合会と結ぶ。

中川佐渡会員によって路傍

の草花に植物名が付され、良き教材を呈す。ヒメキンミズヒキ、トガクシコゴメグサ、ナギナタコウジュ等々、国衝地ザラとシラバ、芝生草木の緑と山に変化を与えている左渡の特徴。眺望も効いているが少しづつ雲が下りて来、時々間近になる。

マトネで時間差は25分。僅かな休憩時間でも現在位地確認する班、植物探索の班等々がある。男性1名遅れる。111名中の1で率としては良いが軽ければと思う。

ドンデン山小屋前着、時間短縮のため食事中でも教材に



船内イベントプラザでの登山教室

事欠かないリーダーの頑張りがある。先刻の男性1名は車道より収容班で大佐渡ロッヂの車で両津へ下ることになった。その付添看護婦2名が離れて到着したのは、既に前班の出発後であった。

ここで出発時間差は35分、朝と同じ。下りで少し急坂になると女性にありがちな揃い踏みで行くもどかしさも見られ、リーダーはリズムを出してと指導して行く。また、2、3日来の雨でぬかるみになった路にためらう姿も次第に少なくなる。この下りで15時発乗船は断念した。

林道終点着。1・2の班は長了承の下で両津へ向かっていった。到着時間差は30分余、無理のあった計画変更案にも20分余の遅れで発船10分前となっていた。

閉会式、事故なく終わり佐渡山岳会へ協力の感謝、遅れのお詫びを述べて閉会の辞とした。

反省

5年目にして気配りの欠けた運営ミスが数多くあり、主管者として全く恥ずかしくお詫びするのみで、戒めとして次回以降に活かしたい。

A 人員を92名から112名に拡げ過ぎた。

初回から漸増傾向、不在中の振替申込は経過日数で断れずになった。班編成人員もリーダーが確かな掌握できる人員に、募集人員もそれに合うよう縮少すること。

B 地迂りによる通行止には人員が通れる規模にでも、復旧できないものか様子をみていたが、梅雨期、夏山時期とコース変更が遅れた。

C 北五十里コースは歩行で山麓着になること。この検討が遅れた。当初計画ドンデンより車両利用下山が無くなり、充分な教室が出来なかった。

D 後続車の確認浅れ。

E 無線通信の開局遅れ。

F 15時発汽船に間に合わない。

G 閉会式洩れ
いずれも主管者私自身の気配りの欠いたこと痛感した。

Fについてはコース変更時に復路船便変更がよかったのではないかと反省している。

結論として、毎回時間の制約をする状態で運営しているが、女性及び初級者が大半の登山教室では、なお一層の気配りが必要となり、それに見合った班編成、通信、行程でなければならぬ。次回からは縮小した方向で実施してゆくことにした。

グループ化、指導者養成は今迄避けて来たが、検討してよい時期に来ているのではないか。

各山岳会から参加したリーダー等役員は、この登山教室を経験することによって、確実に視野が拡まり、技術向上に結びついている。

これまで無事故で経過した。

カムチャッカ讃歌 ④

ロシア女性の歌声に
励まされる年輩組

日本山岳会会員

小 倉 厚

最初の湧水から遂に雨になつた。全員雨具をつける。こうなるとますますペースが落ちる。道らしいものももちろんない。ロシア隊員は地形によって見当をつけて歩いてるようだ。幾度か雪深を越え、湧水を渡ったりそれでも少しづつ高度をかせぐ。雄大な風景の中を歩いているわけだが、

むすび

山岳遭難事故防止、安全登山と機会ある毎に啓蒙して欲しい昨今でも、中高年の事故が跡を絶たない。

いつでも、どこでも、誰でもが、権利としてのスポーツを生涯スポーツとして楽しみ登山を、遺体遺品の一部しか見当たらない、或いは不明のまま等悲しみの姿にならないよう、未熟な委員会であるが、今回の問題を活かして次回に続けたいと思う。

ご協力を戴いた佐渡山岳会他に厚く感謝する次第です。

協力山岳会
佐渡山岳会、越後ハイキングクラブ、越後山岳会、下越山岳会、楽山会、むささび会、峡彩山岳会

残念ながら視界は全くない。しかし、カムチャッカヒゲマの巨大な足跡や小動物の糞などは時に発見できる。こんな雪と溶岩砂の中で、どうして生きているのだろうかと思ってしまう。

12時15分、標高1750mに達したところで雨は遂に雪に変わった。高緯度のこの地は2000mでも、ネパールの45000mに匹敵するかも知れない。ちなみに森林限界はヘリコプターが着陸したモーター・チュルダック付近で、標高はわずか50mに過ぎない。

午後2時20分、六回目の休憩、ようやく昼食となる。熱い紅茶が有難い。雪は相変わらず降り続き、この時期にこの標高でと思うとさすがはカムチャッカだ。

キャンプキーパーとして最長老のM隊員と、運転手のユリーさんはベースキャンプに、ここから引き返した。よく頑張ったものだと思う。

昼食後はやや急坂となって、奇妙な形をした火山弾がごろごろころがる岩稜となった。地図もなく(あったとしても読めないが)、情報伝達もま



悪天候での登山

まならない雪の山中では、我々はどこを歩いているのかさっぱり分からぬ。五里霧中とはこんなことを言うのだろうか。全員疲れたらしくスローペース、隊列も乱れがち、休みの間かくが短くなる。そんな中でもロシアの女性ニーナさんと、イルシアさんはとても元気だ。とくに小柄なイルシアさんは人気者で、運転手のユリーさんと同じタートルの出身。砂の上に66と書いたら、私の年齢をすぐ察し30と書いた上、お母さんは50と書いて私の歳に驚いたようだ。霧の中、ロシアの二人の女性の歌声が響く。本場のロシア民謡カチューシャだ。日本

の若者もこれに和して、我々年輩組を励ましてくれた。イルシアさんはトルバチュクには3度登ったという。しかし、前進キャンプまでにさらに2、3回の休息。

上部より2名のロシアの隊員が急ぎ足でおりてきて、通訳になにかさやいた。通訳がいうにはキャンプ予定地は、すぐ前に薄く見えるピークの先だという。もう一息、再び元気をふるって動き出す。

わがクラブ②

柏崎山岳会

山口 誠

我が会は越後の名峰米山の麓に昭和27年、「柏崎白樺山岳会」の名で創立された。が同志会的で会則、会費なしの発足であったと聞く。

その後会員も増え、組織を整理して、昭和33年に戦前の昭和7年に創設され、4月の白馬岳登頂など活躍した「柏崎山岳会」日本山岳会員の名称を引き継ぎ、今の姿となっている。

現在32名の会員で組織され、合宿、月例山行、登山道整備など、又、地域の山岳会とし

午後3時30分、前進キャンプ(A.C)予定地に到着。標高2250m。雪の中、早速、日口両隊員はそれぞれ助け合いながら、テント張りに精を出す。稜線上に炊事テントとロシア隊員用2張、沢筋に日本隊用2張、そしてロシア隊用1張のテントを張り終わり、前進キャンプ設置完了。みんなほっとする。そしてこれよりテントの生活が始まる。

(長岡新聞より転載)

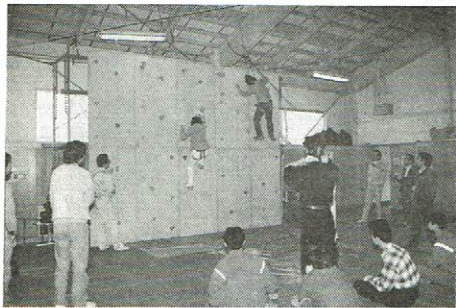
て、登山啓蒙の為市民登山会、登山講座等、行政と連携を取りながら地域に密着した活動を行っております。

年間の山行計画はリーダー、会が担当し、4月の総会で発表、審議される。本年度の山行は5月飯倉まつりと称し鍋を背負って八石山の山菜山行。6月久しぶりの新人を迎えて大山の歓迎山行と高妻、乙妻山の月例山行。7月の会津駒ヶ岳月例山行。8月のマチガ沢東南稜。9月の越後三山の秋季合宿。10月の西ゼン紅葉

山行。11月の尾瀬月例山行とザイルまつり「谷根山荘」。元旦の米山と、杉ノ原親睦スキー山行。あと3月に計画されている金峰山で企画された山行は、参加者の多少はあるが、予定通り無事で消化できたものと思う。

その他、年間の特別山行は4月残雪の米山市民登山の主催。5月より年間を通して米山の登山道整備と、柿崎山岳会さんと協力して山頂避難小屋の管理と周辺の環境整備を行政との委託で行っているが、近年登山者への自然保護など啓蒙も行き届き、奇麗になってきていると思う。

8月には夏山市民登山会。これは昭和33年妙高山の第1回以来続き、今年で39回目、加賀白山を数える。苦労は多いが、収益は会の大きな財源となっている。以上が年間の特別山行、事業であるが、会も創立から40数年、思ってもみなかった2度の遭難事故に直面、山の厳しさを痛感し、紆余曲折の繰り返しの中で、山小屋建設、米山山頂俯瞰図盤建設、赤岩ダム建設の為に各沢の調査、谷根新道の開道。そして月報「柏稜」の発行な



ど、大きな、ハデなあゆみではないがなんとか今日に至っておりです。

会員の平均年齢48・5才。会員同志の絆は強いと思う。これからの方向としては、無理なく、地道な活動を個人及び会として目指して行きたいと思う。

文化祭に 人口ボード出現

長岡工業高校山岳部では11月11日、12日、当校で開催された文化祭に人口ボードを体育館に仮設して、来訪者から人口ボードの理解と実演を楽しんでもらった。

小宮山教諭の指導の基、縦4m×横5mの壁面を工用足場を使用して作り、2日間で3回の実演指導を実施した。事前PRの無いなか、会場を覗いた来訪者は次々にボードに挑戦し、予定時間を倍にして指導が行われ、順番待ちの人達がしびれを切らす場面も

南極だより

越冬隊員 片桐 一夫

あった。人口ボードは、今後フリークライミングの普及とともに、国体競技少年の部に導入の声があり、長野県の一部の高校ではすでに授業に取り入れられているとのこと。県内にも新しい屋内スポーツとして普及が期待されている。

(1月28日
ドーム基地 FAX発)
FAXありがとうございまして。ドーム基地最大の楽しみです。

1月25日まで寝袋の生活でしたが1月26日に越冬隊9人だけの生活、個室に入りました。

個室サイズ D175 W210 H239で、ベッド・机もありリラックスできます。日課 7時30分朝食、8時30分仕事、12時、13時昼食、午前と午後にお茶の時間があり19時頃まで仕事、19時夕食、その後は原則自由時間です。

ドーム基地は標高3850

mの氷床上にあり、周囲は大雪山と青空以外何もなく、広大といっても適当でないし、まあ表現できない広さというところでしょうか。

「みずほ基地」から「ドーム基地」へのルートは雪上車のトレースが僅かに残っており、2km毎にドラム缶と赤旗のついた竹竿がルートを示しています。皆さんは2km先のドラム缶を確認できるでしょうか。私はコンディショニングのいい時は6km先のドラム缶を視認できました。

いまは24時間太陽が出ておりますが、気温はマイナス40℃程度、午前3時頃にはマイナス50℃近くまで下がっています。

ドーム基地は標高3850

ます。でも体が順応した故か寒いとは思いません。しかし、外に出ますと耳たぶが痛く、素手で金属にさわると痛みとともに指先が白くなります。愛用のサングラスは離せませんが金属フレームの顔面に当たる部分は間もなく凍傷になります。

空気が日本の平地の60%しかありません。少し力を出すとすぐ酸素不足を感じ、仕事量は50%くらいでしょうか。隊員は体力が必要ということ強く感じています。

2月6日新年会は私もドーム基地で酒を飲みます。酒は36次隊、35次隊が残した凍結酒が沢山あります。ビールは不足するでしょうが、日本酒はふんだんにあります。それでは又、ありがとうございます。

(2月4日、pm10時45分
ドーム基地pm4時45分)
今日は休日です。まだ何かと慌ただしい毎日が続いておきますので、久しぶりにいささかゆっくりした日です。ここでの昨年の記録を見ますと1年間の降雪量は僅か2・4mmです。信じられない数字

ドーム基地は標高3850

ですが、3850mの氷床は何万年の堆積で学術的に貴重なものだということがお分かりいただけるのではないのでしょうか。

毎日太陽に照らされて、ダイヤモンドダストが何とも言えない美しさです。4月夜の季節になりますとオーロラにお目にかかれます。元気でいますから皆様宜しくお伝えください。

登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736

ダイヤル通話 001-873-1206246
FAX (A4版) 001-873-81-1206246
取扱時間 (日本時間) 午後8時~午後11時